



【臨時レポート】

2024年8月5日

ご投資家の皆様へ

しんきんアセットマネジメント投信株式会社

## 弊社公募投資信託の基準価額の下落について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、弊社の公募投資信託の基準価額が2024年8月5日に大きく下落しましたので、その要因等について下記のとおりお知らせいたします。

記

### 1. 基準価額および下落率（前日比で5%以上下落したファンド）

(2024年8月5日現在)

ファンド名称	基準価額 (円) 10,000 口当たり	前営業日比 (円)	下落率
しんきんインデックスファンド 225	22,810	▲3,214	▲12.4%
しんきんトピックスオープン	15,418	▲2,163	▲12.3%
しんきん好配当利回り株ファンド	25,244	▲3,349	▲11.7%
しんきん好配当利回り株ファンド（3ヵ月決算型）	8,587	▲1,154	▲11.8%
フコク SRI（社会的責任投資）ファンド	23,640	▲3,203	▲11.9%
しんきん SRI ファンド	10,989	▲1,489	▲11.9%
しんきん JPX 日経 400 オープン	18,501	▲2,623	▲12.4%
しんきん日経平均オープン	18,344	▲2,586	▲12.4%
しんきんノーロード日経 225	15,737	▲2,218	▲12.4%
しんきんフコク ESG 日本株式ファンド	14,934	▲2,005	▲11.8%
しんきん DC 日経 225 株式ファンド	15,890	▲2,240	▲12.4%
しんきんみんなの日本株ファンド	10,063	▲1,375	▲12.0%
しんきん 3 資産ファンド（毎月決算型）	7,844	▲460	▲5.5%
しんきん 3 資産ファンド（1年決算型）	12,072	▲713	▲5.6%
しんきん国内株式インデックス（投資一任用）	12,125	▲1,709	▲12.4%



## 2. 下落の要因

8月2日に発表された米雇用統計を受けて、米景気後退懸念が高まり、同日の米国市場では、株価が下落し、円高が急速に進行しました(図表1,2)。米国株の下落と円高が重しとなり、5日の国内株式市場では日経平均株価が史上最大の下げ幅となりました。投資家が市場の先行きに対して抱いている不安の大きさを示す日経平均版のVIX指数が先週から一段と上昇し、史上最高水準まで急騰するなど、投資家がパニック状態になっていることも株価急落に拍車をかけているとみられます(図表3)。

今回公表された7月の米雇用統計では、失業率が4.3%と前月の4.1%から上昇しました。ただし、失業率上昇の要因は、移民の増加による人口の増加や職探しをしている人が増えたことが主因であり、企業の採用意欲が急速に冷え込んでいるわけではなさそうです(図表4)。また、今回の米雇用統計はハリケーンの影響を受けた一時的な悪化という見方もあり、雇用情勢が急速に悪化したと判断するのは時期尚早だと思われます。雇用の強さを示す労働需給ギャップは、減少傾向にあるものの、プラスを維持していることから、依然、米労働市場は底堅い状況が続いていると言えます(図表5)。そのため、米景気は減速傾向にありますが、現時点で景気後退に陥る可能性は低いと言えます。

## 3. 今後の展開の見通し

まず、株価の押し下げ材料となっている円高については、いったん落ち着くことが予想されます。今年の円安要因の一つである投機筋の円売りポジションが急速に縮小しています(7月30日時点、図表6)。その後さらに円高が進んでいることから、現時点ではほぼ円売りポジションは解消された可能性があります。そのため、今後は少なくともここ最近にみられた急速な円高進行の動きは止まることが期待できそうです。

また、日本株の割安感は強まっています。株価の割安感を示す株価収益率は8月2日時点で、過去10年間の平均程度まで下落しており、本日の下落を受けて、一段と割安感が強まったとみられます。そのため、今後は割安感に着目した資金流入が増加することが期待できます(図表7)。

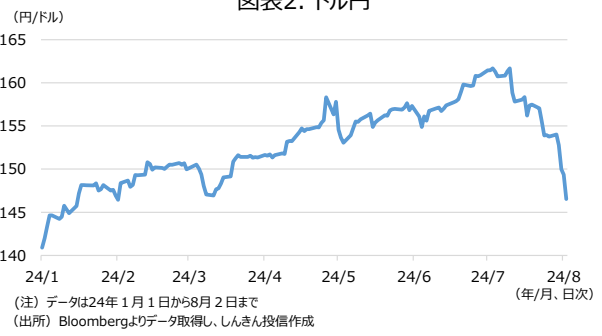
過去のリーマンショックやコロナショック後の動きをみると、急落した後に、その後株価は上昇しています(図表8)。投資家心理が悪化しており、短期的には荒れた動きが続く可能性はありますが、国内企業の業績は改善傾向にあり、今回も中長期的には株価は回復することが期待されます。



図表1. 米国株 (NYダウ)



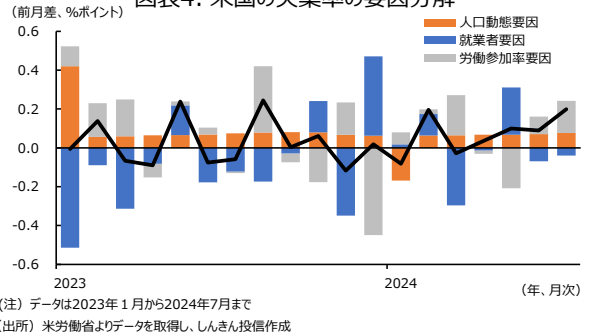
図表2. ドル円



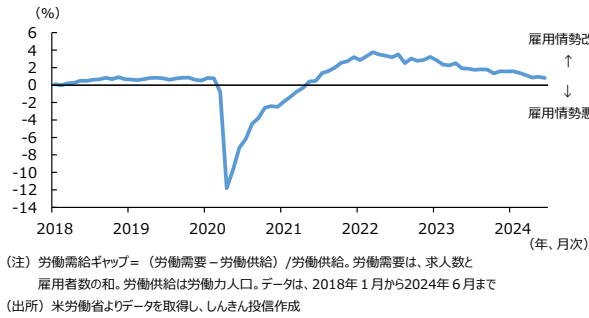
図表3. 日経平均版VIX指数  
(日経ボラティリティインデックス)



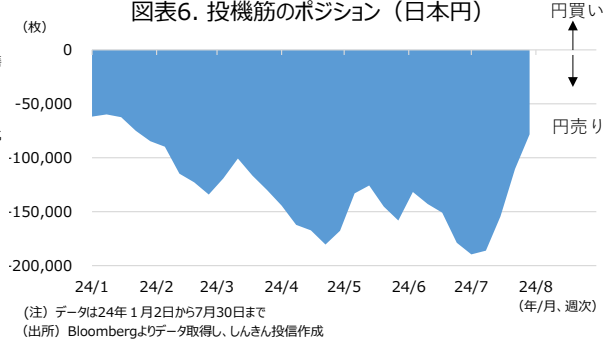
図表4. 米国の失業率の要因分解



図表5. 米国の労働需給ギャップ



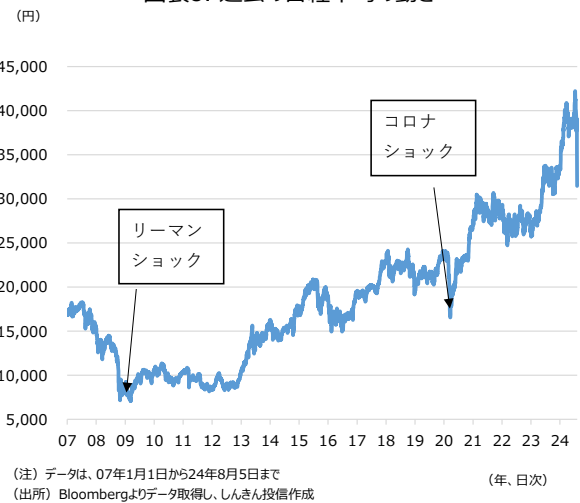
図表6. 投機筋のポジション (日本円)



図表7. 日経平均とPER



図表8. 過去の日経平均の動き



以上



＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

- ※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- ※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、請求目論見書については、販売会社にご請求いただければ、当該販売会社を通じて交付いたします。

【お申込みに際しての留意事項】

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

（お客様に直接ご負担いただく費用）

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

（保有期間中に間接的にご負担いただく費用）

- ◆ 運用管理費用（信託報酬）・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託に係る上記費用（手数料等）の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくお読みください。

- ※当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。